

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	女性のための再チャレンジプログラム 介護事務受験対策講座		
法人名	学校法人ティビィン学院		
学校名	国際テクニカルデザイン専門学校		
代表者	理事長 斎藤 武士	担当者 連絡先	古木孝幸 TEL0285-31-0113
<p>1. 事業の概要</p> <p>居宅介護・施設介護における、請求事務および介護保険の制度を学習することにより、福祉の分野で就労、活躍できる事務、コンピュータ処理を学習する。 講座修了時には介護事務技能認定試験を受験し、介護事務管理士の資格取得を目標とする。</p> <p>受講者内訳(全て女性)9名 30代前半1名 30代後半3名 40代前半1名 40代後半3名 育児などに携わる相談はなし</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度に関する流れと重点理解 実務と直接結びつき、社会的な動向としても注目される分野であるため、意欲と理解度は高かった。 ・介護事務受験対策 認定試験もここ数年難化する傾向にあり、処理速度を上げるための練習時間は授業時間内でカバーできなかった。 ・レセプトコンピュータ実習 手書きの事務は手続きの流れが理解しやすいが、コンピュータ実習では便利な面、手続きの流れが理解しにくい点などを留意した。理解と操作は問題なく実習できた。 <p>②事業により得られた成果</p> <p>検定試験は、練習時間などの不足もあり、実績が上がらなかったが、介護保険と請求事務の仕組みを理解することにより、福祉分野への就労意欲や、医療事務への学習興味などは得られた。</p> <p>③今後の活用</p> <p>介護事務は、介護保険制度から学習するため、福祉分野での導入的な学習には適しているが、介護事務のみだと就労に関してアピール力が劣る。他の福祉分野(住環境コーディネータなど)との抱き合わせで講座を展開していく方法などを思案する。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>検定試験結果が思わしくなく、時間配分などを見直す必要がある。今回は夜間に行った講座だか、昼間でゆとりのあるカリキュラムを設定する必要がある。展開においては前述「③今後の活用」と重複するが、他の講座との抱き合わせで展開していく必要が感じられる。</p>			

3. 事業の実施に関する項目

【テーマ】

初学者が短期間で介護事務に必要な知識・スキルを身に付け、学習の成果として、介護事務技能認定試験を受験し、合格が見込めるレベルまで到達できるような講義を展開する。

【期間】

平成19年12月6日(月)～平成20年1月31日(水) 総時間数35時間

【受講者数・受講者の属性】

30代が5名40代が4名の計9名で全員が女性であった。
属性としては、現在求職中が5名一般企業勤務が4名であった。

【場所】

当校普通教室

【受講者の反応】

介護保険制度は生活においても身近な制度なので保険制度の学習関心度は高かった。レセプトコンピュータは実務に近く、実施反応は良かった。手書きレセプト作成が最も手間取り、時間を要したことから作成の大変さが伺えた。

講座申込時は4名就業していたが、講座終了時も変化はなかった。